

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを目指すことを理念とする総合大学である。人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部の5つの学部、地域創生専攻、総合文化学専攻、理工学専攻、農学専攻からなる総合科学研究科と教育学研究科の2つの大学院修士課程、理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科の3つの大学院博士課程がある。

教育研究基盤施設として、国際教育センター、情報基盤センター、保健管理センター、図書館が設置されている。研究施設としては、地域防災センター、平泉文化研究センター、ものづくり技術研究センター、三陸水産研究センター、分子接合技術研究センター、次世代アグリイノベーション研究センターがある。

学生数は約5,500名、教職員約700名（うち教員約350名）の大学である。5つの学部がすべて同じキャンパスに設置され、10分以内でキャンパスのどこへでも移動でき、学部を超えた交流が盛んである。また、20カ国以上から約220余名の留学生が学んでおり、短期留学の派遣・受入も盛んである。

さらに、本学には約50万点の資料や標本等があり、これらの財産を一般市民にも活用してもらうため、農業教育資料館（1994年重要文化財指定）や図書館等で一般公開している。

② 国際交流の実績

2025年10月1日現在で、中国・ロシア・モンゴル・タイ・アメリカ等18カ国1地域、65の大学・研究機関等と国際交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数225人、日研生1人

2024年：留学生数206人、日研生0人

2023年：留学生数185人、日研生1人

④ 地域の特色

本学の位置する盛岡市は、北東北の交通の中心地であり、豊かな自然に囲まれた人口30万の教育・文化都市である。春夏秋冬の移り変わりが美しく、それぞれの季節を楽しむことができる。また、小規模都市ながら、生活しやすい環境である。

岩手は、宮沢賢治・石川啄木・野村胡堂・萬鉄五郎・田中館愛橘・金田一京助など、学術・文化に貢献した多くの人材や、後藤新平、新渡戸稲造ら国際的に活躍した人物を生み出した土地である。総理大臣も4人輩出している。県南部に位置する平泉はかつて奥州藤原氏が栄華を誇った土地で、ユネスコの世界遺産に登録された。世界遺産としては、橋野鉄鉱山、御所野遺跡も有する。また、県中央部の遠野は多くの民話や伝承が残り、民俗学者 柳田國男の『遠野物語』で有名である。このほかにも、さまざまな芸能、食、工芸等の伝統文化が受け継がれる豊かな地域である。

2011年3月の東日本大震災では沿岸地域を中心に大きな被害を受けたが、地域の復興・再生が進められ、その知見は他地域からも注目されている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースのねらいは、日本語能力を高めながら日本や岩手の文化・歴史・地理・政治・経済・社会・教育等について理解を深めることにある。教室内の学習にとどまらず、日本文化体験、地域住民との文化交流活動、ボランティアなど様々な体験学習が豊富に用意され、体験を通して「日本語」「日本文化」どちらも学べるのが本学のプログラムの特色である。なお、歴史、文化については英語による授業も開講されているほか、日本人学生や他のプログラムの留学生との共修プログラムが豊富で、日本人学生、留学生とともに、日本や岩手に対する理解を深めることができる。

また、滞在中を通じてひとつのテーマについて研究する「個別研究」を通じて、実践的な研究力を高める。卒業論文の基礎研究とすることも可能である。

③ 受入定員

5名（大使館推薦4名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースの受講要件は、以下のとおりである。

- 1) 中上級以上の日本語能力（日本語能力試験N2合格相当、日本語教育の参照枠B2以上）を有する者。
- 2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻している者。

⑤ 達成目標

本コースの達成目標は以下の通りである。

- 1) 日本語による高度なアカデミックな文章作成力、口頭発表力を習得する。
- 2) 日本や岩手について、体験に基づく幅広い知識を獲得し、理解、解釈する能力を得る。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月 ～ 2027年8月

（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 来日

10月 開講式・オリエンテーション

後期授業開始

不來方祭（文化祭）

11月 国際月間

多文化コミュニケーション研修

1月 フィールドスタディ（スキー）

期末試験

4月 前期授業開始

6月 多文化コミュニケーション研修

国際合宿

7月 個別研究発表

フィールドスタディ（企業・工場見学）

期末試験

8月 盛岡さんさ踊り参加

プログラム修了式

8月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件

修了判定＝必修科目及び選択必修科目の条件を満たした者について、履修科目の成績により判定し、コース修了証を発行する。また、成績等の条件を満たした場合、各履修科目について単位修得証明書を発行する。なお、原籍大学の都合等により、7月末での修了も認めることがある。（応相談）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本コースは以下の領域の授業・活動からなる。

日本語・日本事情等に関する授業

多文化コミュニケーション

個別研究

各自の研究テーマに関する専門の授業

指導教員の助言のもとに、留学生向け科目のみならず、本学の教養教育科目、専門科目の中から各自の能力、関心に応じて選択し、履修することができる。自由度の高いカリキュラムを活用することにより、独自の日本語・日本文化の研究を深めることが可能となる。

「個別研究」では日本語・日本文化に関するテーマを選択し、文献分析、調査などにより研究を進め、その成果発表を行う。

2) 研修・コース開設科目

★必修科目（集中）

個別研究：日本語・日本文化のテーマに関する研究とその成果発表。

★選択必修科目

I. 日本語（各学期3コマ3単位以上）

* 日本語レベルにより選択し、履修する

【中級後半レベル】

中級日本語Ⅱ文法：N2レベルの日本語文法学習

中級日本語Ⅱ会話：状況によるスピーチレベルの使い分け能力学習

中級日本語Ⅱ作文：レポート、論文要旨作成練習

中級日本語Ⅱ漢字：N2レベルの漢字学習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

【上級レベル】

上級日本語A：討論、ディベート

上級日本語B：論文作成練習

上級日本語C（文系）：歴史を中心とした文系文献理解

上級日本語D：論文読解

上級日本語E：学術的口頭発表

上級日本語F：論文作成

上級日本語G（文系）：文系文献理解

上級日本語H：論文読解

* 学部専門科目の日本語学関連科目を履修した場合も「日本語科目」として認める。

II. 日本文化・社会

（各学期2コマ4単位・60時間以上）

※変更となる可能性がある。

Iwate Studies A：古代から中世の岩手の歴史について遺跡、博物館等の見学と検討（見学・地域交流も含む）

Iwate Studies B：近世以降の岩手に関する見学と検討（見学・地域交流も含む）

日本事情A：日本各地の歴史を軸とした地域事情学習

日本事情B：日本の政治の歴史的変遷学習

3) 見学、地域交流等の参加

フィールドスタディ

（企業見学/工場見学/スキー）



4) 日本人との共修等の機会

* 選択必修科目(日本文化・社会)に含む

※変更となる可能性があります。

Japanese History A : 古代・中世史学習

Japanese History B : 近世以降の歴史学習

Comparative Japanese History A :

日本史と世界史の対照1

Comparative Japanese History B :

日本史と世界史の対照2

Japanese Traditional Culture A :

生け花学習1 (実技含む)

Japanese Traditional Culture B :

生け花学習2 (実技含む)

多文化コミュニケーションA :

日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。

多文化コミュニケーションB :

日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。

School Internship I :

岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習1 (見学・地域交流も含む)

School Internship II :

岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習2 (見学・地域交流も含む)

5) その他の講義、課外活動

人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部で開講されている専門教育科目の中から、各自の能力、関心に応じて講義を選択することができる。これらの科目履修も強く推奨する。

また、課外活動として、地域の学校訪問による自国紹介事業や子どもとの交流事業、地域の祭事への参加、見学、体験活動が豊富に準備されている。さらに、学内で、日本人と留学生との交流サロンである日本語カフェをはじめとする、グローバルビレッジでの各種イベント、公開講座等も日々開催されており、これらの活動への積極的な参加が推奨される。

⑪ 指導体制

留学生の専門分野や興味・関心にマッチする専攻の教員が、指導教員としてあたる。また、日本語指導や生活・就学上の相談などについては、国際教育センターの教員が担当する。

<国際教育センター専任教員>

氏名 Name	
秋葉 多佳子 Ms. Takako Akiha	日本語教育 Japanese language education
山内 亜美 Ms. Ami Yamauchi	英語力向上のための企画・運営、留学指導、海外研修の企画・運営 Education Management for English Skills Improvement, Study Abroad Consultation, Planning and coordination of Study Abroad Programs
アンデス カールキビスト Mr. Nils Anders Carlqvist	日本事情・岩手学(歴史、文化、宗教)、短期留学(インドネシア、スウェーデン)、いけばな・古代出雲(風土記、神話) Japan Studies, Iwate Studies (History, Culture, Religion), Short-term Content-based International Program (Indonesia, Sweden), Japanese flower arrangements, Ancient Izumo (Fudoki, Mythology)
ジェイコブ ピーターセン Mr. Jacob Petersen	ICTプラットフォーム管理、ツールとしての英語教育実施計画開発、ICTツールを活用した教育トレーニング ICT Platform management/design, Development of English learning schemes, ICT training



フィールドスタディ(スキー)

■宿 舎

キャンパス内に位置する国際交流会館に入居することができます。部屋には、シェアハウスタイプ(4人1ユニット)と単身室があります。

月額宿舎料(光熱水費を含む) :

【シェアハウスタイプ】33,000円

【単身室】36,000円

施設使用料 : 30,000円(1回のみ)

インターネット年間使用料 :

【6ヶ月まで】11,000円

【12ヶ月まで】24,200円

寝具年間レンタル料 :

【6ヶ月まで】7,700円

【12ヶ月まで】15,400円

■修了生へのフォローアップ

帰国後の進路等について、継続的に連絡をとり、情報交流や必要な支援を行うとともに、留学生同窓会への参加を呼びかけ、同窓生との交流も図る。また、日本での就職希望者について、キャリア支援課と協力し、ガイダンス等の支援を行う。

■問合せ先

岩手大学学務部国際課

住所 : 〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-34

TEL : +81-19-621-6927 (直通)

FAX : +81-19-621-6290

Email : gryugaku@iwate-u.ac.jp

岩手大学国際教育センターホームページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/>

岩手大学ホームページ

<http://www.iwate-u.ac.jp/>